

校長の挨拶・学校教育説明の概要(10分間)

本日はお忙しいところおいでくださりありがとうございます。

本日PTA総会が役員のみで開催となりましたので、皆さんへの教職員紹介がありません。申し訳ありません。簡単にご報告させていただきますと、数学科の烏山凌輔先生が異動となり、代わりに内藤大輔先生をお迎えしました。よろしくお願いいたします。

今年度も新型コロナ感染防止のために昨年度のように行事が延期・中止となることもありますのでご了解ください。

また、今年度から本校は、コミュニティースクールとなります。教育活動上特に大きな変化や保護者の皆さんへのご負担はありません。いずれ青梅市内の全校がこの形の学校に移行します。

次にこの場を借りまして、新しい学習評価についてお話しします。小学校では昨年度から新しい学習指導要領に基づいてこの評価ですでに教育活動が行われています。大きな変更点は資料の一枚目の裏、学習の観点が4～5観点から3観点になったことです。これまでは、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解でした。今年度からは知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度です。新しい通知表をご覧になるとわかるのですが、今年度から新しい3つの観点がそれぞれA～Cという評定で評価され、それが総合的に評定として5段階になります。評価・評定はテストやレポートなどの提出物、発表内容などによって決まります。

ところでこの3つの観点のうち3番目の主体的に学習に取り組む態度が実はわかりにくいのです。この観点ではねばり強さと学習の調整がバランスよくどこまでできるか、ということが評価されます。スライドの23番を見てください。漢字の学習を例にとってみますと、ねばり強さと学習の調整のバランスがよくできている生徒がBとなります(Cの例を紹介)。ただし、これまでのように提出物を全部出しているとか、毎回挙手をしているとかいうようないわゆる態度がよいだけではBとして評価されません。提出物の中味、つまりねばり強さが発揮されている内容か、そして手を挙げてでも課題に沿ってよく考えた発言内容かどうかで評価されます。これは学校の評価が目標に沿った評価であって絶対評価や相対評価ではないところによります。努力や情熱などの評価は個人内評価として通知表の所見でコメントなどの形で評価されますが、教科の観点別の評価は目標が達成されているかどうかで評価されます。

先生たちも特にこの三つ目の観点の評価については正直試行錯誤で進めているところです。生徒たちには各授業で教科の先生から評価について説明をしていきます。年度のはじめと各単元のはじめで説明していく予定です。また生徒の授業アンケートもこの視点で、例えばねばり強さや学習の調整のポイントを予め示してくれているかといった評価の説明を適切に生徒にしてくれているか、こういった視点での授業アンケートとなります。学校はそれを授業改善につなげていく流れです。

保護者の皆様におかれましてもご不明な点がございましたら、遠慮なく学校へお問い合わせいただきたいと思います。以上で校長からのご挨拶と説明を終わります。